

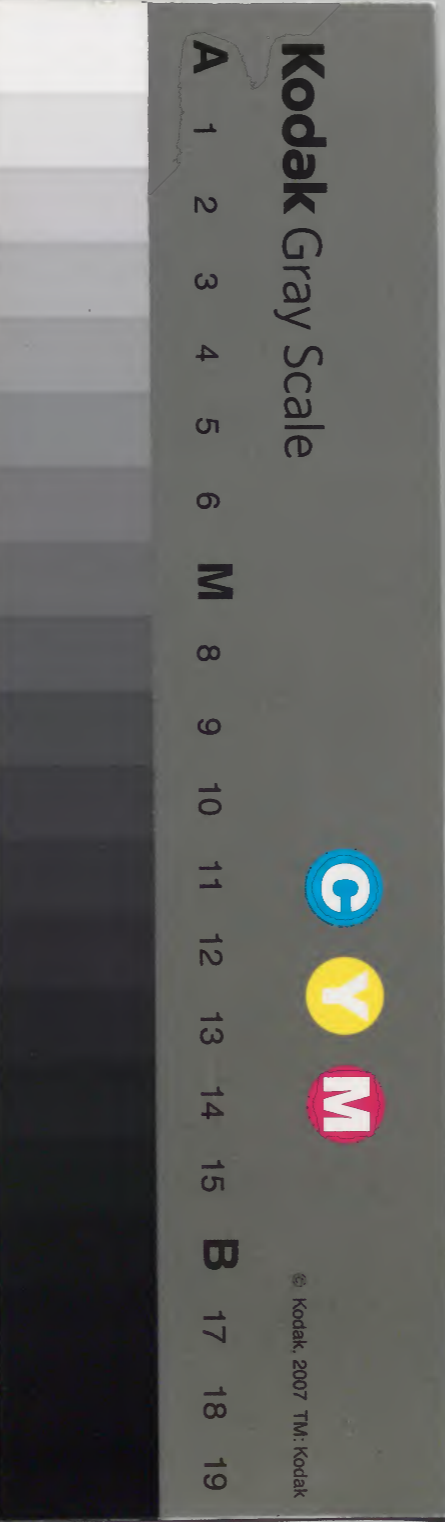
無鑑系日誌
左院
初編

藏書院

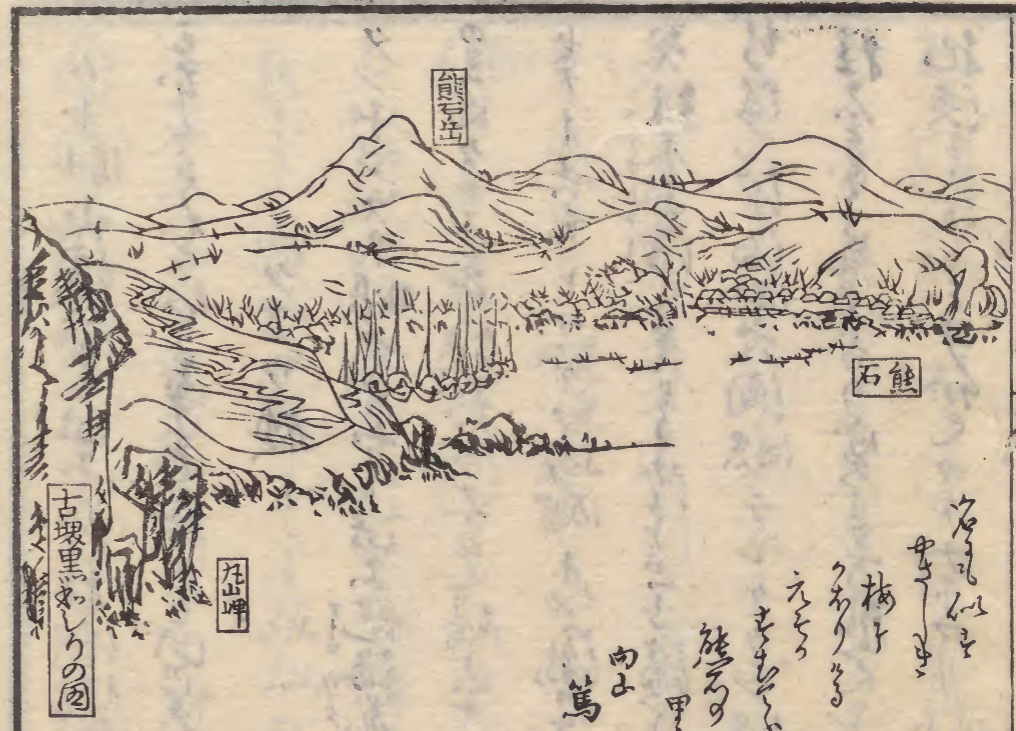
冊	架	函	號	類
一八	一八	一八	一八	和書門

冊	架	函	號	類
一八	一八	一八	一八	和書

內閣文庫	
番號	和 8884
冊數	17 (6)
函號	178 242



西の山



熊石
 甲
 乙
 丙
 丁
 戊
 己
 庚
 辛
 壬
 癸

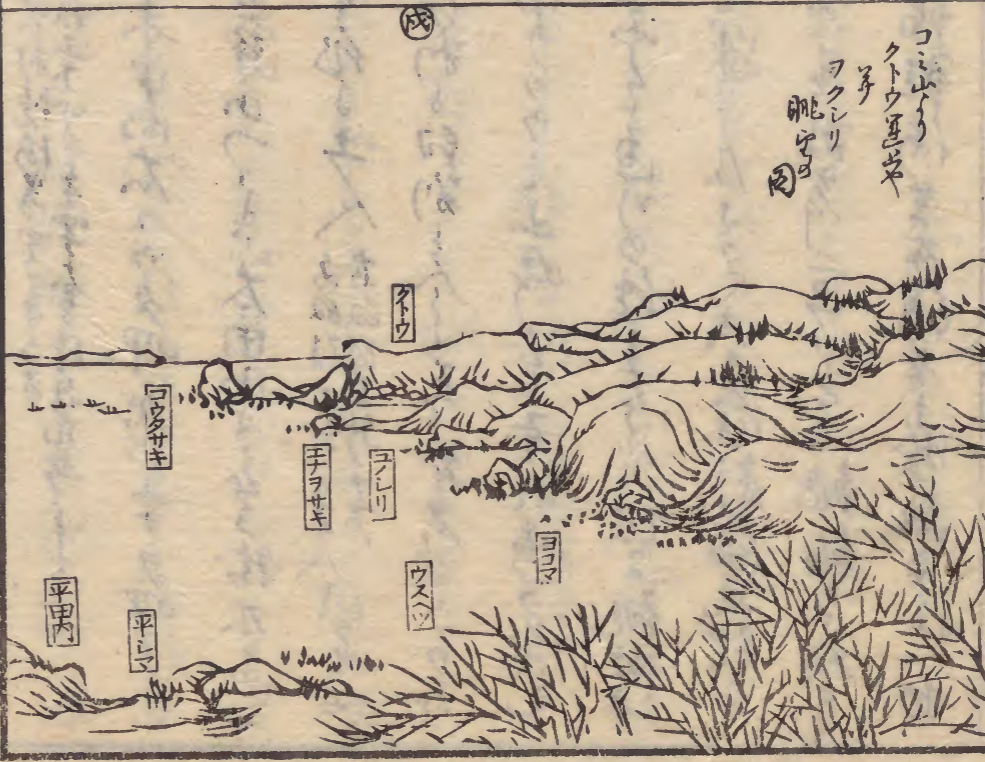
川有依長くニレハ岬口で沙溪
 下屋ヲタニコロヘツ小川
 トリマと云ふ名大沙カイトリマ人小岬
 越橋石大均懸石岬口でヤン
 ケヲヤモエ岬口で宮本ヲタ小宮本
 多き故よりヲタと云ふのよりニレハ

西の山

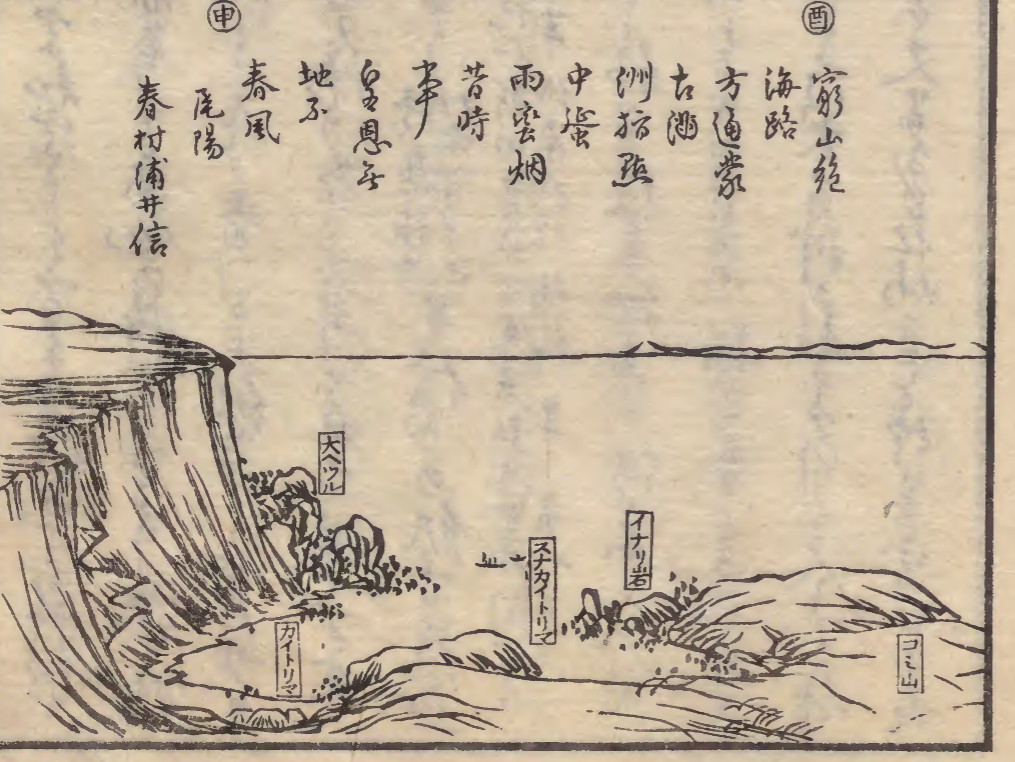


演をてヲタと云ふ夫を飛てウタと
 云ふあり中ウタ上ウタ等の如く
 中廣上演と云ふカマヲタ地下戸
 小エカウシナイ川小ホンヲタウシナイヲ
 ニコロヘツヲレマルンナイ川ヲレマコマナ
 小川小田内川等と云ふ人あり左り
 高木ヲタ石エナヲ岬と云ふ又前よ
 高木と云ふトフカルシナイ小川
 蕎麦葉目母魚と云ふトハヤソツ
 ケハユリ
 ケ岬上をゴシ山と云ふトモあり古ク

千道能は西海に想のち利網を月
 敷^二守^二三^二年^二八^二九^二を^二長^二成^二又^二七^二八^二人^二と一
 抱く^一、^一を^一手^一抱^一取^一更^一分^一せ^一ひ^一と^一云^一て^一其^一身
 の三^三操^三能^三の長^三十^三身^三位^三あり^三一^三頭^三と
 浮^一き^一海^一は^一是^一の^一結^一の^一名^一と^一境^一下^一と^一云^一く
 下^一は^一二^二三^二百^二月^二の^二名^二を^二海^二是^二を^二ナ^二ツ^二石^二
 と^一云^一く^一網^一を^一船^一舟^一に^一横^一舟^一に^一海^一を^一結^一舟
 能^一の^一群^一未^一く^一不^一ま^一の^一不^一ま^一く^一は^一く^一網^一を
 魚^一を^一ふ^一ま^一に^一投^一入^一せ^一く^一左^一と^一小^一キ^一魚
 を^一三^三年^三の^三日^三を^三抜^三て^三海^三を^三今^三の^三日^三を^三く^三入^三



月利を伐く^一網を取^一て
 舟中へ振ひ^一る^一を^一く^一ま^一り^一不^一く^一丸^一小^一を
 を^一補^一理^一し^一を^一を^一収^一納^一を^一是^一を^一刻^一止^一
 能^一と^一く^一内^一地^一を^一使^一彼^一岸^一一^一は^一く^一
 此^一は^一二^二廻^二に^二進^二んで^二奥^二の^二河^二を^二四^二月^二五^二月
 月の^一字^一を^一小^一船^一を^一な^一は^一り^一月^一を^一如^一く
 能^一を^一東^一より^一南^一を^一く^一能^一を^一西^一より^一
 舟^一を^一く^一能^一を^一白^一蛇^一四^一月^一を^一く^一
 能^一を^一く^一能^一を^一貴^一と^一此^一能^一地
 月の^一土地^一の^一一^一大^一を^一あ^一く^一他^一國^一の^一耕



雲霧若くは夜霧の如くしてまゝたるは境の文字も割有りとクトウの請負
大なりたるを油を海にけりしは其れを積むるを附境燭と云ふ也
標極を人の中ホウシの如くして必しも大田切を請負たるは其れを
二所控の者も請負るは其れを神の各股と稱し其れを御
燭と云ふ也 燭の如く取て死するは依り松原の此境自らユクリマウシや
成る海客のなまの自境を定むるなり

チクリ

名義ヲクを大シリを島と華未接りしあり
ト云フ 東北の隅ヤマセトマリ 此は一極極を指し船泊るなり
三角の隅の松原のホクシをいふ 此は山崎の松原に魚の如

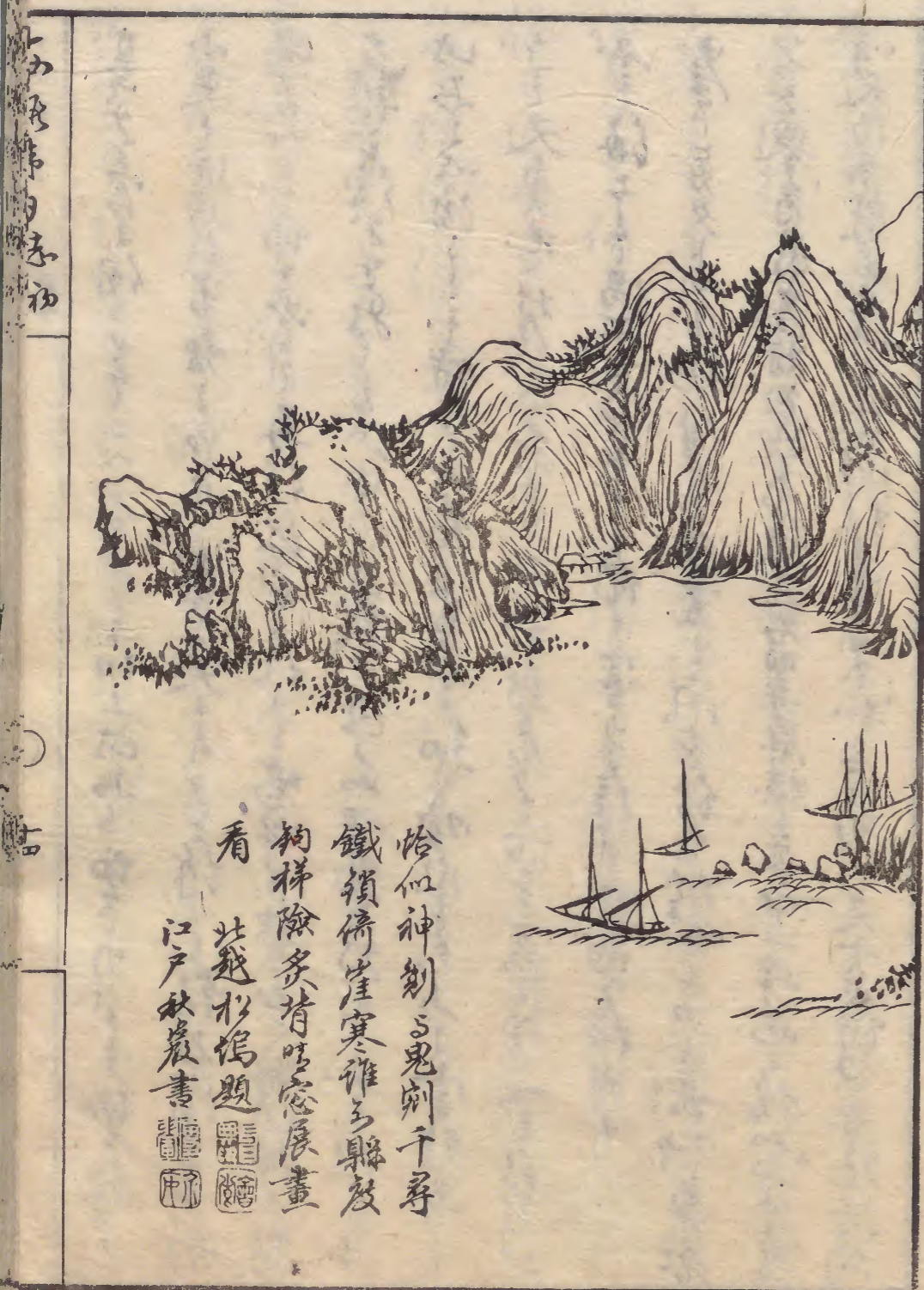
船岸高はつれ船後かろるは此海氣陽輝に餘影更海客也
島の平林を海客の海客 山中樹多し又若木も甲俗に云ふ
年々船と氣とを待てるなりと云ふ船の如くして人余弘化
二所船を寄せ必しもあつては氣を来り舟にありんか
此味も豆物も氣をくくるとは此の如くして笑むるも時
かば氣もあつて天を土に此の氣をいふ人玉先中船を大に
て急い出ゆりしなり又帆の貝の大に物も温胸もかゝ大樽セタ内切人
を毎春来る様なりと云ふ 此は釣懸大釣懸 此はフタシユ
マナイ岬 ウトカロウシナイ 此はフス引ルコウシナイ 此は越前系石岬
山にウシユウタシ フコチナイ 此はチフタナイ 此はホロシタシエシヨ

五
十
七
卷
第
一
册

各
峰
圖
錦
山



十
七



恰似神劍与鬼刺千尋
鐵鎖倚崖寒誰与縣啟
鈎样險矣皆以念展畫
看
北越水碓題
江戸秋巖書

十
七
卷
第
一
册

十
七

其の山を何とせしニベシナイと切上りし切下りの功を如く
小吏も追つれ弟銀の如き審又とて許し結ば深きと情
愁むの功を愛し再任はをれ鳴呼の歎の如く相神を留
大教之法を好む中々愛を道に如く物を持ちてふと風を
此の山に訪ふ時は山は如く知り順風を乞ふと靈験若し
また又奥地は村の人を如く二ふを持ちて一を愛し如く
必し海上に過す有るべきに依り室あり柱あり物を持ちて
崖下ヒカタトマリ候 往來の船客は風を待て下りカニ岳口華衣
とて攀着岩崖然欲死墜左右翠屏横之其中一峰屹々恰如昔之
呼天約長數年併まると向し道守者不知名前川文有詩曰奇絶指問

無名怪異草折未有毒疑を實あると云ふも其の傍磐石を凡そ
百金樹枝岩角飢鼠冒髪草鞋濺血青く岩壁の下に二僧法鎖血
る懸奉りし十余の洞に針を矢サ文修保ヤ如く愛撫を伴架中ニ米鐘
佛具を多く依り白波懸崖日眩須臾も新作を夫の耕心地
偏にや仙の思をある土人の口を愛し我証をあると近は又此村歌を
吾王権現の像と安室を御前歌に
太田山を去るにありの一事を了却まざる也君り其子
崖下トトワラタハおくを早の耕心太田を成りトトワラハ解又は何
昔の愛の道とをりし一軒あり又是を二ツチウハ山道七カ一由存物眺
地較是市街の程魚海又愛し石不確り多し七金の色を思ふ

山記 卷之六 太田山

西の巻の序

此度又是より上ノ二ノ峯を越テラル石ノ山越テ新居を切開キ
峯峻一汲汲を洪ノ上を飛城別越テレフニクルトマリ石津を満ル
深淵より舟を引くとヲチヤウレ下崖テレケウシヨエラニテ岬
峯を以テ
其附キリしを越ルヤホ一子ヲコバツセ國ノ奇思如雲ノ多
キ定メ流を思痛難の程を以テカクテ繩と下ケ長ク余是を
下下屏風ゆかこは洪濤激怒一と大睡りし時ホロコバツセ
大なる者との多ク是を越ルとテ山平とテ夫より席杖の程
上を引て下。凡百歩半満身留能の泥まみれなり爰に流有
此子居る者なり是をカムイムシベ小流と云フ一テ
岬ノ過テ場月一ノナチアガ
柱を以テ岬内ノ穴を以テ其
かや息を引



みまひつゝ 正辭
まじりし
まじりし
まじりし

癸亥晩々寫小半之

西の巻の序

山崎村

りわ

大樽傾

標極とこの地對岸を絶嶮岩信尖無字船地合と山と城てクチ
 ヤラ岬シヨレケヲンハノブ岬村人船隠しの岩と云上を越てニシフ
 コリアイ崖をさしチヤラセナイ岬の上を山城し是を和入ニ丸ウタ
 と云又岩壁をさすクツホク壁和入是を極岩と云岬と云也山平女
 餘万爾是大本倒大岩海中ノ乱石の岸埋りホンアキ岬の通リ
 不を船り岬の如きはクツホク思儀多ひて二ツチウベ
 出極有前二ツの岩破をもめての洞と云遠眺舟其我を人々ありあり
 山中伝ふりも多り此山岬地處てチヤラセナイ岬の海面望み水烟より



風あり波をれり
 波のしるき
 山崎

山崎村
 竹邊人
 印

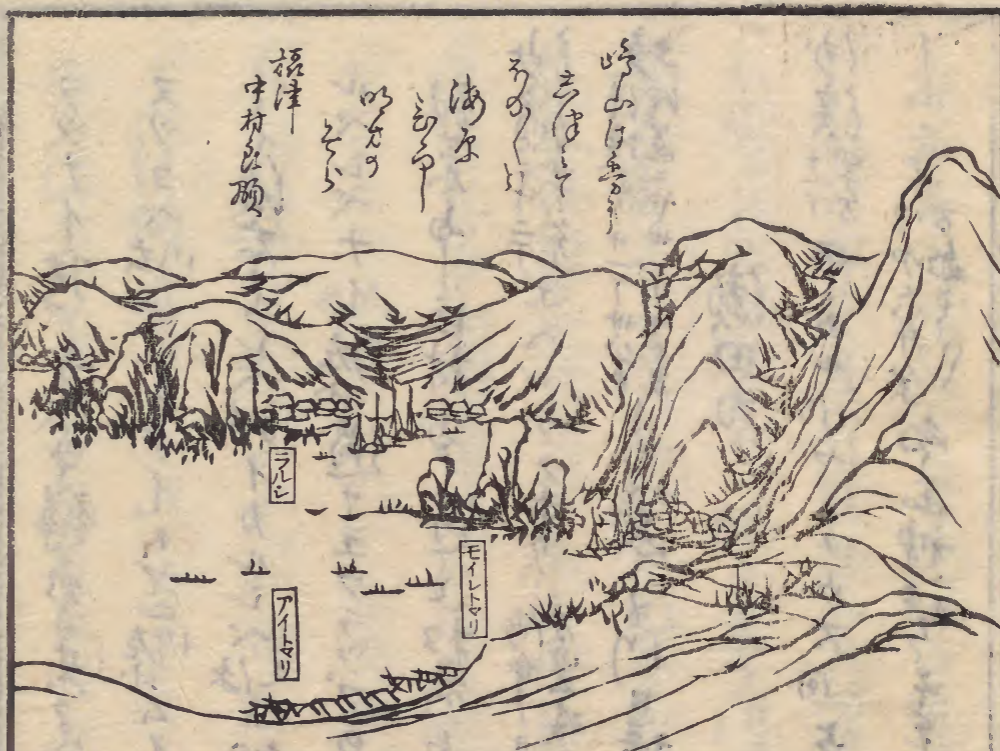
庭船ありイタキミを直連する途海にカサく流れ屈曲し
 南を向し舟の舵忽少く又東に中し誠位も不定に甲
 も舟の息の周より眺まると舟の帆を直折承る
 不意に舟の帆を直折承る舟の帆を直折承る
 思ふにフシコ右ハツタラアシリハツタラ左ホニ右ハツ
 ホニ左又タフ右ヒン子カモイ左マ子子カモイ右是男神女神の行
 舟と越てウロハツタラ左ホロ又タフ右マサウ左家右あり
 夫は往細を曳くは此の山道なる橋あり巨大之象又ハツタラ
 思ふ故上の舟を直折承る舟の帆を直折承る舟の帆を直折承る

フツナイ左キ人の船あり右クウヲマナイ左リイヒラ右
 又ツコベリ左ハンケイシヤニ右ムイタウシ左ヘタヌ右此舟を直折承る
 舟の源太を直折承るイカルシベ左ユ洞ウス右の方よりたうヒレヨマ左
 ルベレナイ左過てユウラツプ右の川上セヨハツ左の舟を直折承る
 往來あり巨材あり近き松あり流珠の時舟あり伐あり
 沙濱左エヘレケ右ノホリ右舟あり
 境は境ありサニサニ右舟あり
 境は境ありサニサニ右舟あり

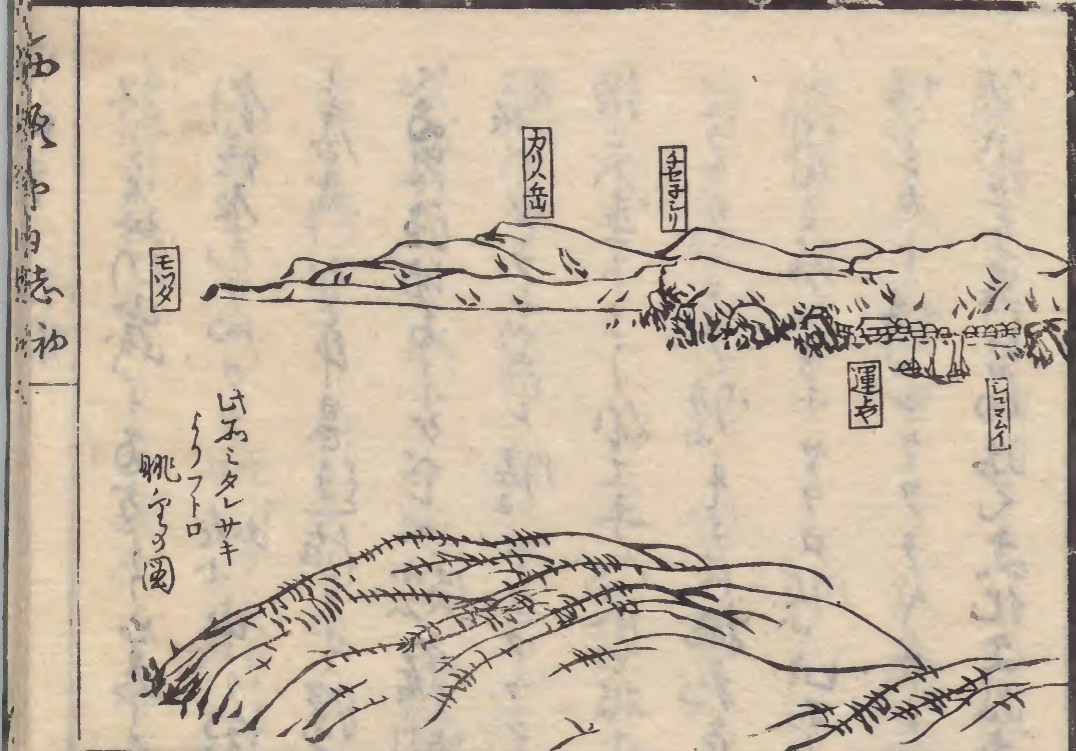
瀬田内

少溪左エーカル右ヤミノウス右とよき舟の境あり
 トレハツ右舟あり
 舟の境あり
 舟の境あり
 舟の境あり

口加非...



新中も任や... 一秋味始... 一川船... 一馬物...



右... 月日... 右... 新... 版... 方... 塔... 名... ツウ...

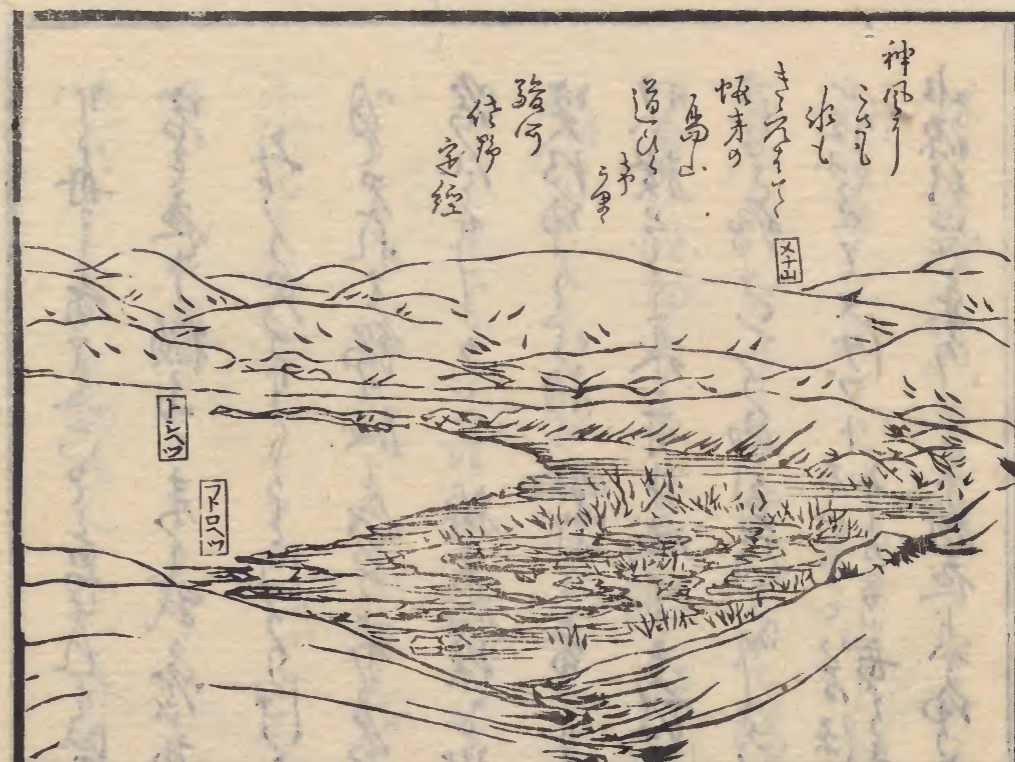
西...

...

杯を此川出さるる方より出るる故よりとシタキハ船を此川に
 針位辰已向ヲタマフ山申向本系ノタマフ所酒向東未午
 と書出ル此年甚遠旅しと深一ヲホヤチ左小門は不徒細曳場
 と名置治場也ケベレ左小漢語引石洞城マコマナイ左小沼ベツ左小
又沼イタラシベハレチエフウントウ左小上左小鮭菜ありしをそが
 沼入奉下より依て土人氷を破て細を入をそとよりイマレハツ左小
 シユフシウレトウ左小は桃花集ありしヒリカレユレユタイ左小平
 山柳ありぬくコチヤヲロ左小けあり上を大橋願ととヲ、チヤロツヘ
 て左小シカール左小ハンケヲチヤウ左小ヘンケヲサウ左小セホツナイ
 原山巴東岸皆畑海く文化文政度の繁昌実々心中より川より此意

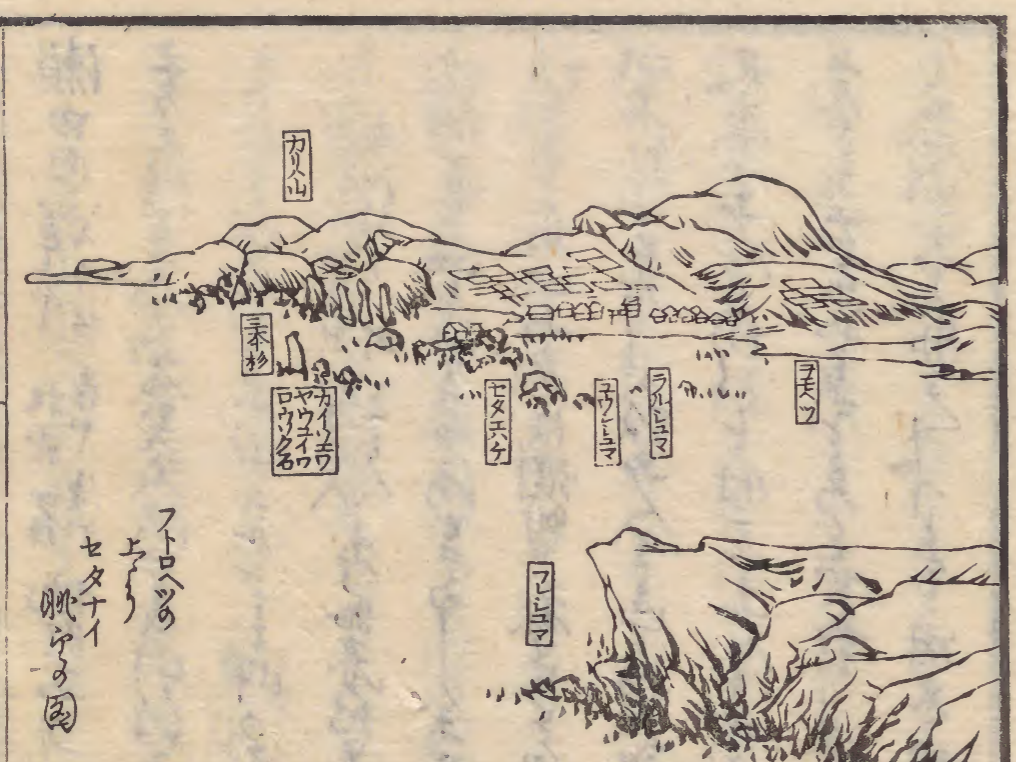
舟より去り上りて思はれぬ時には降りて舟を捨て上陸して
 宿を夜中懶多末我の宿を奪りんとしむる危き事あり
 舟より思ひつゝとてはりけりし事ありしは此れなり
 唯てこれに錫の版も袋も米も皆なくして困る余をシヨウ傷むる所にて
 宿を奪りし者にて捕まへて持去りて時をチライニ尾を
 突けしめしる朝の餓饉より命をとりたれ
 時接する水三斗減りしを食むる所の由りて朝減て夕に
 夜を過するに舟を奪りし者にて捕まへて持去りし事ありしは
 シカール左小メナブト左小在りし中セハル左小源なり
又シカール遠海に心をとめてし中をけ水より
 水源の管束ありしを附夜下へ舟を奪りし事ありしは
 是れなり上境

山崎新田



月達内小宮のありあまを宛てて
 凡そ三つ々々多項に記す所を
 魚のついで巨材ありてなる法を
 八分程と云ふ道に記す所を
 夏にれと云ふやまの物に
 あつたるゆゑに
 怪しむ所はシユマヤ海中岩の儀
 ラルシユマ岩浪打越岩の美し
 ニツクヲモナイ小前よセタエツ
 キ岩等一ひら麻と大く直り海に

山崎新田



入る麻を何ふと云ふ大く直り海に
 作らるる岩の似たりて
 フレコヘツ右き者一馬場の石
 是と云ひ終る陸の奥よりトレヘツ
 みるに形をなす深き水に
 立待てて岩塔よりホリカベ岩に
 毎天社あり海中に実岩ありコウシ子
 シユマ中工ウソ岩中アイソ岩
 中帆燭岩と実出風雲早一後下
 登了ナニ丁甲ハ月
 境目下十丁ナニ丁

山口 萩 萩 萩

一

もそ味あくま所んも スツキ岬 島ヒカタ泊 島 スツキヘツ 川中五
急流湍川とそそりかきつて夜入ビヤの字 廬の舟あり

こもそれ波と来月の影 尺さそり月の船 崎もわたり

川の両岸壁を蹴り 龍有とそいキ子ナイ川 小ウエニエツキ 川中五

方北 坂岳のほろメナ山の月 影のま 餘小沢 崎もわたり

度は 赤糸道 切開 安道 和 赤糸の浦 田岳 治二年 花馬三正と 曳く

れ 川を 限り 舟より 先トコマイ 舟より 舟と 舟と 舟と 舟と

切開 川 舟より 舟と 舟と 舟と 舟と

羽之 九瀬 田内 舟より 舟と 舟と 舟と 舟と

も有 川 舟より 舟と 舟と 舟と 舟と



川中五
急流湍川
とそりかきつて
夜入ビヤの字
廬の舟あり

山口 萩

